

新世話人先生ご着任される

**新世話人に
まつだまさはる
松田理治 先生**
(本部長、海外部長)

これまで夕張大教会では、10年にわたって喜多秀和本部長先生(明快分教会前会長)が世話人をおつとめ下さったが、このたび4月26日付で、新たな世話人が松田理治本部長先生に決まった。

5月25日には、大教会長ならびに大教会役員が、ご本部神院にて松田先生とご面会し、親しく挨拶申し上げ、更には心機一転の思いを込めて共にかんろだいに向かってお願いごとめをさせて頂いた。また、合わせて本年10月15日の夕張大教会秋季大祭へのご臨席をお願いし、その方向でご検討いただくこととなった。

夕張の道は大教会階級のころより、歴代世話人先生を通じて頂戴したおちばの声を素直に受けて、懸命に歩んできた歴史があつてこそ、今の姿がある。教祖百四十年祭を4年後に控え、未だコロナ流行の状況下ではあるが、本年の秋季大祭にはこれからの成人の匂を逃さぬよう心を新たに、夕張全体がおたすけに一步前進して行けるよう思いを一つにさせて頂いた機会とした。

会長より皆様へ

先日6月8日のニュースで、ウクライナから国外へ避難を余儀なくされた人々の数が700万人を越えた事を知りました。既に百人以上も苛烈な侵略を受け続け、国中におびただしい犠牲者が出た事を想像し、辛くてなりません。去る4月15日に天理へ避難して来られたウクライナ出身のオクサーナさんと二人のお子さんが、市と天理大学の厚い支援を受け、祖国を思いつつも新生活を始められたニュースは一つの希望でした。無力な自分ですが、この文を読んで下さっている皆様と共に世界の紛争の終わりを祈り続けたいと思います。

ところで、悲惨なニュースや、悲しい体験談に向き合う事で、自らの心も苦しくなり、疲れてしまふ事を「共感疲労」と呼ぶそうです。相手に共感できる思いやりの心は、時として無防備な心ともなり、他人の痛みを過剰にもらい過ぎてしまふのだと、心理学の専門家が注意を呼びかけています。ましてや



この夏、親里では「夏休み子どもひのきしん」の取り組みの一環として「ひのきしんセンター」を設けております。また、「ピッキー広場」「ピッキーとリボンの宇宙探検」「ほんわかシアター」「おやさと謎解きウォーク in 参考館」などの催しが準備されます。

みなさんに安心して夏休みの家族帰参ができるよう詰所準備をしておりますので、帰参する方は夕張団まで申込みをお願いします。

申込み QR はこちら→
お問合せは 団長 藤田豊 0903892703 まで
よろしくお願ひいたします



ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp

LINE 友達登録
お願いします

お知らせ

7月15日(金) 9時30分開扉献饌
委員部長講習会 7月23日
夏の子ども会 8月11日 開催予定

婦人会よりお知らせ

立教185年度年間行事に入れております7月23日(土)「婦人会総会」を中止とし、「委員部長講習会」に変更いたします。時間は10時～12時、昼食用意します(各自お持ち帰りとなります。)

尚、それに伴い8月20日予定の「委員部長講習会」は取りやめます。

創立百十周年記念月次祭 長沼分教会

去る5月8日、長沼分教会で創立百十周年記念月次祭が、大教会長様、奥様ご臨席のもと、執り行われた。

当日は晴天のご守護を頂き、40名程の参拝者を迎えておつとめが勤められ、特に後半は月次祭に向け各家庭で鳴り物練習に励んできた少年会員が中心となりつとめた。

おつとめ後は大教会長様のご祝辞を頂戴し、百十周年記念動画をスクリーンで視聴。この動画は、今までの古い写真を丹念に調べて、今の長沼の基礎を築いた方々を取り上げてあり、懐かしい先人の姿に、涙ぐむ人もおられた。

その後はお弁当をお渡しして解散となった。

尚、記念事業として教職舎横の付属建物が解体され、当日はその跡地が駐車場として活躍した。



教人資格講習会を受講して ――受講者の声――

この度、馬追分教会から4人のよぶほくが5月27〜31日の5日間受講させて頂きました。その内2名は初めての受講生、後の2名は30年程前に教人登録済みで2回目になります。主婦4名、約1週間、家を空けるには夫の理解なしでは叶わない事。不便を掛ける夫に感謝し、それぞれが色々な思いを抱え、「いつ講習へ行くの?今でしょ!」を合言葉とし、60代3名、30代1名、3歳児が笑いあり、涙(3歳児のみ)ありのあつという間の5日間でした。

どの先生方のお話も心に響き、私の悩みを知ってそのお話を聞かせてくれるのかしら?と思わせる程、一つ一つ悩みを解決していきます。なんと不思議な事、やっぱりおちばは有難い! 教祖が喜んで下さっている! 受講生に78歳の方もおられ、自分もまだまだ若いと思えました。これからももっとと喜び上手になり、親神様教祖に喜んで頂けるよう、成人させて頂きます。

(馬追・竹田悦子)



をびや許しを頂いてから3年半、おちばに帰れていなかったのですね。

3歳の息子と一緒に日頃のお礼をさせてもらおうと、母に誘われたときは二つ返事で受講する事を伝えました。

しかし日が経ち、毎朝泣きながら幼稚園に登園している息子を見ていると、期間中に託児所に預けるのは大変なのではないかと先案じしてしまい、前向きな気持ちで受講日を迎える事が出来ませんでした。初日、先生から「不足の心でいてはもったいない」と話を頂き、心を入れ替えて過ごす、なるほどと思う事が多く、授業で先生や受講生の話や聞く事がとても楽しくて、後期まで一緒に受けたかったと思うようになりました。

最終日の授業で「親神様にもたれていれば、先案じすることは無い」という言葉を聞き、おちばに帰らせて頂くのに何も心配する事はなかったと改めて実感しました。結果、息子は5日間毎朝泣いて託児所に行っていました。先生や託児所の方、一緒に受講した方々に支えられながら笑顔もたくさん見られ、無事に前期を履修することが出来ました。また息子を連れて中期、後期も行きたいと思っています。

(馬追・大西麻友美)

第40回祝梅若人会 総会報告

5月21日土曜日、祝梅分教会におきまして、若人会会員9名、スタッフ11名、教会・ひのきしんの方々18名、総勢38名がつどい、総会をつとめました。

今年も新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、座りつとめ、よろづよ八首を執り行い、その後は会長祝辞、委員長挨拶、記念撮影を短い時間で実施いたしました。

まだ従来通りの若人会総会とはなりません。40回目の若人会総会を実施出来たことに対して大変嬉しく思っています。これもひとえに、教会・ひのきしんの方々がスタッフの方々のご支援とお力添えの賜物です。この場を借りて深く感謝申し上げます。また、今年も他の行事を従来通り実施することが難しい場合があると思いますが、その都度スタッフや会長さんと相談し、出来ることを精一杯つとめさせて頂きたいと思ひます。

(祝梅若人会委員長 伊藤伸幸)

大教会日誌抄 5月

- 1日 たすけ推進会議
- 2日 前会長夫妻、札美分へ
- 4日 会長、支部例会・組例会
- 5日 会長夫妻、沼貝分巡教
- 8日 会長夫妻、長沼分
- 11日 百十周年記念祭へ
- 14日 前会長、札美分へ
- 15日 月次祭準備
- 17日 月次祭
- 19日 前会長夫妻、札美分へ
- 20日 会長夫妻、札美分参拝
- 21日 少年会総会準備
- 22日 少年会総会(オンライン)
- 24日 少年会総会(オンライン)
- 26日 会長、おちばへ
- 27日 前会長夫妻、本会
- 28日 前会長夫妻、おちばへ
- 29日 前会長夫妻、おちばへ
- 30日 前会長夫妻、おちばへ
- 31日 前会長夫妻、おちばへ

庶務部 5月

- ▽本部食堂ひのきしん
- 中石恵美子(理喜道) 5・16
- ▽教人資格講習会・前期 5・27
- 竹田 悦子 (馬追) 31
- 安藤真佐代 (馬追)
- 古屋くみ子 (馬追)
- 大西麻友美 (馬追)
- ▽修養科972期新入生 6・1
- 中井 富雄 (直轄)
- ▽をびや2件
- 6月 藤崎実 (旭都)
- 7月 藤田豊 (幌都)



同じ時間を過ごせる喜びに
笑顔がはじける

第43回 夕張団 少年会総会 オンラインで開催



5月22日、夕張大教会にて少年会総会が開催された。当初は、おつとめ役割にあたる20名前後の少年会員と運営スタッフが大教会に集合し、その他の少年会員また育成会員はオンライン（ZoomおよびYouTube）に参加する予定であった。しかし開催前日、某スタッフが新型コロナウイルスの濃厚接触者に該当することが判明し、大事をとってスタッフ以外、全てオンライン参加に切り替えて開催されることとなった。

当日は、まず藤田豊団長がオンラインであいさつをした後、育成会長である藤田大和大会長のお手を合せて親神様、教祖、霊様を参拝。続く開会の言葉は、工藤咲さん（旭都隊）が、緊張の面持ちではあったが、はきはもと元気な声でつとめてくれた。次に、藤田大教会長の拍子木を芯に、日頃の感謝とコロナ収束の願いを込めておつとめがつとめられた。その映像に合わせて、それぞれの教会や各家庭でも、一手一つの心を神様にお受け取りいただけるようにと、少年会員が鳴り物やおてふりを一生懸命につとめた。続いて、少年会長である真柱様からのご告辞を藤田大教会長が代読。少年会員、また育成会員に向けて、親心あふれるお言葉を頂戴した。その後、藤田大教会長があいさつをし

「生きているからこそなんでも感じられる。生きていることを喜んでね、と教祖は教えてくれました」と少年会員へメッセージを伝えた。ちかひの言葉は、役割にあたる千葉祐仁くん（大龍隊）が事前練習の成果もあり大きな声でつとめてくれて、その言葉に続き、参加者がともに復唱した。また少年会歌斉唱でも歌詞字幕付きの映像に合わせて参加者が声高らかに歌い、距離は離れていながらも心がひとつとなる瞬間となった。

その後は、いよいよみんなのお楽しみゲームコーナー「夕張超難問クイズ大会」が始まった。各家庭や教会ごとに一つのチームとなって、出題されるクイズに答え

ポイントを争うゲーム大会。天理教に関する問題では、おつとめや教祖伝説話を題材にクイズが出題され、総会を通じてお道の知識を深めた。また、大教会会場からのライブ中継を用いて、わさび入りシュークリームを誰が食べたか当てるゲームなど、趣向をこらした催しが行われた。画面越しに見える会員の顔には、楽しそうな笑顔がはじけており、参加者もそして運営するスタッフにとっても喜びいっぱいだった。

その後、親神様、教祖、霊様を参拝し、閉会の言葉を和泉結夢さん（善進道隊）がつとめ、団長のあいさつを最後に少年会総会は終了した。

楽しかったし
面白かったし
わさび食べたお兄さんが
かわいそうだから、
なんか今度あげたい
(山本美月、善進道隊)

おちかいは、
少し緊張した
(千葉祐仁、大龍隊)

参加者の声

大教会長さんの
声に合わせて、
お琴ひくことが
できました
(千葉祐陽、大龍隊)

徐々に
みんなの顔も見れて
子どもたちも嬉しそうでした。
またこのような形でも
行事などがあれば嬉しいです
(保護者、30代女性)

それぞれ訪れる旬に立ち上がり おたすけや育成に力を尽くそう

五月月次祭の様

5月に入って道内は春の盛りとなり、暖かな風が吹いて街行く人の服装も変わってきた。初旬には道内各地で桜が満開となり、それ以外の植物も次々と芽や花を出し、外の景色も色鮮やかに人々の目を楽しませた。

5月15日、月次祭の朝は少し肌寒く、朝のうち参拝場内もストロブを点火し暖めていた。しかし日が高くなるにつれて気温も上昇し、春らしい暖かな空気が換気の度に殿内に入り込んでいた。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りつとめ・十二下りのてをどりが勤められた。日曜日という事もあり、多くの奉仕者や参拝者の顔がこの日は見られ、普段より少し賑やかなおつとめが勤められていた。

講話に先立って、3月に会長就任のお許しを戴いた、新生生分教会の梶川文吾会長が紹介され、殿内に祝福の拍手が沸き起こった。

講話には大教会長が立ち「4月の中頃に内統領室から連絡があり、夕張の世話人の交代が告げられました。これまでは明快分教会の喜多秀和先生でしたが、この度後任

の方に交代、という事になりました。つい二か月前、喜多先生が本部の神殿講話にてお話されたのが、本当に心に残るお話で、これは以前夕張でお話された事でもありますが、『陰徳を積む事で、いざという時に願わなくても御守護頂ける』というお話でした。とても分かりやすいお話で、今でもよく覚えております。

新たに世話人となられた本部員先生は松田理治先生と申します。本部の海外部長を勤めており、今月もコンゴへ巡教されているという、文字通り、世界を飛び回って活躍されている先生です。私が学生の時、ひのきしん隊で松田先生が世話班を勤めて下さっていて、一緒にひのきしんをさせて頂いた事がありました。有難い先生にお話になる事が出来るのだ、と非常に嬉しく思っています。先月先生のお宅にご挨拶に伺いました。『いつでも、なんでも言ってきた下さい』と優しく言ってくれました。本年中には夕張にお越し

いただきましたと思っております。フランスのパリに、ヨーロッパ出張所というヨーロッパ全体の布



教伝道を中心たる出張所がありま

す。こちらの出張所長の奥様とお電話をする機会がありました。その方の妹さんは本州から北海道に嫁いでこれ、地域活動の繋がりがから私達夫婦と親しくしている方で、そんな関係もあってご縁を頂きました。このヨーロッパ出張所、昨年創立51周年の記念祭をされたそうです。本来は2年前に50周年だったのですが、コロナの影響で1年延期し、昨年9月、私の奉告祭と時を同じくして記念祭を勤めた、との事でした。人数制限や感染対策をして、当日欧州各地から集まった方は70名あまり。夕張の数でした。コロナ禍で人の往来も著しく制限される中、国境を越えてまで集まった方々の思いの強さを感じます。そしてその70余名がそれぞれの国々所々で、陽気ぐらしを目指して頑張っている

と思うと、非常に励みになって元気をもらう事が出来ました。

先月より大教会で住まうのは私達家族のみになりました。皆さんには不便な事もあるかと思いません、ご心配の声も頂いております。その中、今後どのように通らせて頂くか、と家族で話し合いました。現在母は札美分教会の会長をしていただいておりますが、今後父母二人で札美にて布教に専念する、という事になりました。そして私も改めて、いち布教師として再出発させて頂きたい。そういった句をお与え頂いたのかな、と思っております。なかなか芽は出ないかもしれませんが、なんとかおたすけ先をお与え頂きたい、おさづけを取り次ぐ方をお与え頂きたい、そのような思いで布教につとめて参ります。

5月にはこれまで『縦の伝道講習会』を開催し、少年会本部より先生をお呼びしてお話を伺い、少年会員の育成やそれに携わるもの成人への心構えを学ぶ、貴重な機会となりました。また、夏に行われることもおちかひがえりの団参に向けて、準備や勧誘に忙しくなってくる時期でした。しかし、今年も従来のこともおちかひがえりは難しい、という事で中止が発表されました。その代わり、夏の時期におちかひに帰ってくる子ども達

に親里でひのきしんをする機会、喜んでもらえる準備を進め、『夏休み子どもひのきしん』というものが開催されます。また、5月22日には少年会夕張団総会が開催されます。今回もオンライン中心での開催になりますが、団長をはじめスタッフの方が少年会員に喜んでもらうと準備をしてくれていきます。YouTubeでどなたでも視聴可能ですので、是非ともご覧になって下さい。

縦の伝道という事に関して、夕張にはお手本になる教会や先生方が沢山いらっしゃると思っております。特に夕張は子ども達と遊んであげる力が強いと思います。子ども達と共に遊ぶ、関わる中で、共に成長させてもらいたい。そして、その中で『私はお道が好きだ、神様が、教祖が好きだ』という想いを自然に伝えていきたいと思っております。子ども達の頃遊んでくれた、世話をしてくれた大人には、親しみをいつまでも持つてくれるものです。そうしていつか、私達が大事にしている親神様を、子ども達も大事に思ってくれる時がくると思います。その時を信じて、今後も育成にはお互い力を入れていきたいと思っております」と話された。

祭典後には1週間前に迫った少年会総会へ向けて、スタッフが準備と打ち合わせを進めていた。